

1	<p>台本ビューアの使い方</p> <p>まず目的の台本のPDFを開きます。メールで受け取ったPDFを台本ビューアにコピーするか、ファイルアプリでPDFを選択するなど、いくつか方法があります。PDFをタップすると、台本ファイルというファイルを作成します。次回からこの台本ファイルを開いて下さい。</p>
2	<p>シーンの認識</p> <p>最初に台本ファイルを開いた時、台本全体をチェックしてシーンやページの認識をします。ここで問題なければ、シーン番号を入力するとそのシーンに飛ぶ『シーンジャンプ』機能が使えます。うまく認識できない場合、この機能は使えませんが認識できないPDFをお送り頂ければ改善できるかもしれません。</p>

4	<p>ビューア機能</p> <p>○文字入力</p> <p>○四角、楕円</p> <p>○縦線、横線、傍線、フリー</p> <p>○マーカー</p> <p>○文字入力</p> <p>に加えて、写真を貼り付ける機能があります。マーカーに関してはセリフを覚える補助的な役割としてマーカー部分を黒くする『マーカーブラック』機能があります。</p>	3	<p>注釈（アンテーション）について</p> <p>ん。守秘義務は守りますので、ご協力頂ければ幸いです。</p>
---	--	---	--

台本ビューアでは、大きく分けて3つの状態があります。

○ビュー

台本を読む、また注釈や写真を見る。

○編集

注釈を加えたり、削除したりする。

○選択

注釈、写真を選択し、編集します。

ビューの状態では

シーンジャンプ、ページジャンプ、検索、しおり

などの機能があります。

しおりは、現在5つあり長押しで登録、タップでその位置へジャンプします。ページの拡大率も記憶するので、登録したその状態を再現します。マーカー

注釈（アノテーション）の詳細

で、色付けされた部分を黒くするマーカーブラック機能は、画面をタップで黒、もう一度タップで戻ります。このタップをページめくりに変更する事もできます。

傍線とマーカーは、行を認識して、その幅で描きますが縦書きのPDFの種類によって、うまく機能しない可能性もあります。今後、改善、改良していきますのでご協力下さい。一口に縦書きPDFといっても、いろいろな種類があるので台本として流通するメジャーなフォーマットに対応できるようにバージョンアップしていきます。

文字入力に関しては、縦書きができるように目指していますがあくまでもPDFという状態で動いている

ので現在のiOSの環境ではかなり難しいかもしれませんが。技術的に可能なら挑戦します。

○位置ハンドルとズームハンドル

注釈を入力すると、位置ハンドル（オレンジの丸）とズームハンドル（紫の四角）が現れます。位置修正、サイズ修正ができますが、無視して次の線やマーカーを描く事もできます。なるべく、シンプルに操作できるように作成しています。

一番重要な事を書き忘れていました。注釈を作成、変更する時の『作業領域』についてです。薄くブルーに変化した部分で注釈の移動、拡大縮小、削除などができます。その下の白いままの領域は画面のスクロール、拡大など普段どおりに使用して下さい。

ここがこのアプリの長所であり短所でもあります。

描く事と、画面を移動する事。

これを使い分けるのに、iBooksでは2本指で対応していますが、この台本ビューアでは領域分けという方法にしました。画面の下部になにか描く時のために、全面ボタンを右上に配置しました。

まだまだ発展途上な状態ではありますが長い目で開発を見守って頂けるとありがたいです。またファイルの複製、移動など非常に簡単にできます。台本ファイルはマメにバックアップをとって下さい。台本ファイルを作成した後のPDFは、他の場所に移しても問題ありません。コピーが台本ファイル内にあります。

今作成中の台本メーカーでは、Macでテキストデータ
ータを台本形式のPDFに変換することができます。

例えば

太郎 「これは？」

花子 「ト書きは5文字、セリフは3文字さげる例」

みたいなセリフとト書き、シーンの柱を自動判別してPDFに変換します。